

令和元年度 多面的機能支払交付金全国研究会資料

**「多面的機能支払交付金による活動」を通して
～消費者が日本の農業に期待すること～**



2019年11月6日
(一財)日本消費者協会
河野 康子

本日お話しすること

- 1、日本の農業は今
- 2、消費者がこれまでどのように農業と向き合ってきたか
- 3、産直活動を通して築いてきたこと
- 4、農業者の皆様に期待すること

- * ここでお話しする消費者・消費者団体の活動は、主に生活協同組合などの取組をもとにしています



日本社会は今・・・

- * 超高齢化・高度情報化・グローバル化
- * 成熟社会・・・量的拡大のみを追求する経済成長が終息に向かう中で、精神的豊かさや生活の質の向上を重視する、平和で自由な社会

日本の農業は今・・・

- 農地減少(耕作放棄地、遊休地)
- 担い手不足、高齢化
- 専業農家の減少
- 地域社会の弱体化
- 多面的機能の維持
- 気候変動と災害対策
- 食料自給率の低下
- 資材、飼料等の確保
- 食料消費の変化
- 関税等輸出入による影響



日本の農業は今・・・

- * 後継者確保や農業継続への努力は？
- * 高収益性確保、労働生産性向上のための方策は？
- * 消費者ニーズを的確につかんだ市場開拓の努力は？
- * 消費者の利益を考えた生産を行ってきたか？
- * 国民(消費者)と同じ目線で情報を共有してきたか？

日本の農業は今・・・

- 新たな食糧農業農村基本計画 (H27. 3)

- 「農林水産業・地域の活力創造プラン」

 - 日本型直接支払制度の創設

 - 攻めの農林水産業の実現に向けた新たな政策

 - 「6次産業化」の推進

等

- 魅力ある農山漁村づくりに向けての報告

 - ～ 都市と農山漁村を人々が行き交う「田園回帰」の実現～

消費者は農業とどう向き合ってきたか

～生活協同組合（生協）では～

○消費者の要望に応えるために、消費傾向を把握

○食料・農業に対して

→安全・安心で、たしかな農作物

→持続的可能な食料生産・農業

→産地や生産者への応援

→生産者と組合員のコミュニケーション

→環境への配慮

○産直事業

生産者と消費者（組合員）の信頼関係をもとに

「おいしく食べて地域を豊かに！」



今の消費者の状況は・・・

- * 和からグローバルへ食生活の多様化・・・
- * 美味しいもの、安全なもの、健康へのこだわり・・・
- * 暮らし防衛、節約、無駄な買い物はしない・・・
- * 食べられる物を廃棄する、飽食・・・
- * 食の技術、伝承が不足・・・

食卓に並ぶ食材が、どこで、どのように、誰が作っているのか、どんな経路で自分の台所にやってくるのか、その値段がどのように決まるのか

ほとんど知らない！

生産者と消費者の距離を縮める！

～見たい・知りたい・わかった上で安心して食べたい～

- * 複雑化したフードチェーンの作る人、加工する人、運ぶ人が、食べる人と繋がる
- * 皆で知恵を出し合い、創意工夫し、協力し、時には切磋琢磨して、くらしや地域に豊かさを生み出していく



生産・流通・消費・地域の課題解決のために！

1. 生協の産直の仕組み

基本的な考え方

- 生産地と生産者が明確であること
- 栽培、肥育方法が明確であること
- 組合員と生産者が交流できること

大事にしていること

- 安定的な供給量の確保
- 産地とのコミュニケーションの強化
- 組合員とのコミュニケーションの強化
- 商品のおいしさの追求

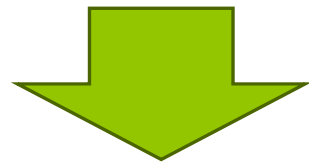
目指していること

- 消費者と生産者の相互理解
- 食料自給率の向上
- 安全・安心な食品の提供
- 持続可能な生産、環境に配慮した事業の推進

生産・流通・消費・地域の課題解決のために！

2. 安全・安心の取り組み

- 農薬の検査・管理
- 安全基準の整備
- 食品添加物の管理



「農産物品質保証システム」



生産・流通・消費・地域の課題解決のために！

3. たんぼの活用

- 米の消費減少、価格下落
- 継続した米の利用が求められる



飼料用米・稲への取組



生産・流通・消費・地域の課題解決のために！

4. 交流で顔の見える関係作り

「産地における生産者との交流」

生産者

- 消費者の声や意見を直接聞くことができる
- 商品をアピールする良い機会となる
- 『つながり』を感じることができる

消費者

- 産地の魅力を感じることができる
- 生産者のこだわり、苦勞、想いを学ぶことができる

生産・流通・消費・地域の課題解決のために！

5. 環境への配慮

「環境に配慮した持続可能な食料生産」

- 青果・米の有機JAS農産物、特別栽培農産物、MSC認証を受けた商品など
環境配慮商品を取り扱う生協が増加

リサイクルループ

店舗から出た食品残渣を堆肥化し、堆肥を利用して生産された農産物を店舗で販売する取り組み。

エコフィード

食品残渣などを利用して製造された飼料で豚・牛・鶏の飼料として利用



生産・流通・消費・地域の課題解決のために！

6. 地域との共生

人のくらしやつながりが見える地産地消商品、地域固有商品等の発掘



「地域の発展」「商品開発」「食料自給率の向上」「生産者と消費者の交流」など
地域経済の活性化に多角的に取り組んでいくことが課題

